



孟母断機の教え



「孟母断機」とは、中国の故事成語です。孟母は古代中国の思想家「孟子」の母のこと、有名な「孟母三遷」（子どもの教育には良い環境を選ぶことが大切であるという教えを意味する故事成語）にも登場する、教育に熱心なお母さんです。

孟子が学問の修行から帰省した際、母は機織りをしていました。

母>「学問は進みましたか？」

孟子>「元のままです」

これを聞いた母は、織りかけていた布を突然、はさみで断ち切りました。驚いた孟子が理由を尋ねると

母>「お前が学問をやめて帰ってきたのは、この織りかけの布を断ち切るのと同じことです。布は途中で切れば何の役にも立たないように、学問も途中でやめでは立派な人物になれません」と、厳しく諭したおかげで、孟子はその後、立派な学者となりました。

この話は、学問に限らず物事を成し遂げるには、たゆまぬ努力を続けることの大切さを教えています。学力は一朝一夕で身につくものではなく日々の積み重ねが、やがて大きな力となります。

3年生は今まさに自分の進路実現に向けて懸命に励んでいる時期です。なかなか思うような結果がでずに、焦ったり、悩んだりすることもあるでしょう。しかし、途中でやめてしまえば、せっかくの努力が無駄になってしまいます。

この冬、皆さんのが自分の目標に向かって、一步一歩進んでいけるよう願っています。保護者の皆さんも、時には厳しく、そして温かく見守り、励ましてあげてください。

自分の命は自分で守る

11月5日（水）、本校では火災を想定した避難訓練を行いました。今回は「休み時間に給食室から出火した」という設定で、生徒が安全に避難できるかを確認しました。訓練開始の合図とともに、生徒たちは落ち着いて行動し、放送の指示をよく聞きながら、生徒玄関前に避難しました。避難完了までにかかった時間は約3分30秒で、全員が無事に集合できました。

避難後には、湖東消防署の方々にご協力いただき、学年ごとに防災体験を行いました。

2・3年生は消火器を使った消火体験を行い、火を消すための正しい操作方法を学びました。1年生は煙道体験を行い、煙の中を進む際の姿勢について学びました。生徒たちは「思ったより消火器が重い」「煙で前が見えなくて怖かった」などの感想を話し、火災の危険や避難の大切さを実感していました。

今回の訓練を通して、生徒たちは「自分の命を守るためにどう行動するか」を考える良い機会となりました。学校では今後も、子どもたちの安全を第一に、防災教育を継続してまいります。



<生徒の振り返りから>

・今回の避難訓練では消火器の正しい使い方や、火事のときはどういう対応をすればいいかがわかりました。天井や柱に火が移ったときは、消化器で消すことができなくなるため、避難した方がいいと知りました。火事のときは状況を判断して正しい行動をとることが大切だと思うので、火事になってしまったときは焦らす、何をすればいいかを考えて行動したいです。

・自分の身を守るためにには、火事についての知識を得ることでより安全な行動をとり、命を危険から守ることができます。実際行った時は、けむりを吸わないように布などで口を覆い、低い姿勢で素早く安全な場所へ逃げることを意識します。消化器の使い方も教えてもらったように、使うことがあったときは正しい方法で使用し、火の勢いを抑えたいと思いました。自分を守るためにあせあらずに、1番に自分のことを考えながらも、正しい判断ができるよう行動することが大切だと分かりました。

・今日、避難訓練をして無駄話をせず、話をよく聞き素早く行動できました。煙道体験では姿勢を低くして煙の中を進むということを教わりました。テントの中は真っ白で何も見えなかつたけど、実際の火事はもっと見えないんだろうと思いました。本当の火事になった場合は、今日の消防署の人たちから教えてもらったことを生かしたいです。



後期生徒総会

11月6日（木）後期生徒総会が開催され、新生徒会執行部が初めて全校生徒の前に立つ大舞台となりました。菊地望桜会長のあいさつに続き、執行部や各専門委員長、学年委員長から活動方針や具体的な提案が示され、全校での討議が行われました。

壇上に立つ生徒たちの表情には、初めての場に臨む緊張感がありながらも、しっかりと準備を重ねてきた自信と責任感を感じられました。発表の言葉は一つひとつ丁寧で、堂々とした態度に新しいリーダーとしての決意が表れています。質疑応答では、活発な意見交換が行われ、学校生活をより良くするための真剣な議論が展開されました。

今回の総会を通じて、執行部のメンバーは大きな一歩を踏み出しました。これから活動に期待が高まるとともに、全校生徒が協力し合い、より充実した学校生活を築いていくことを願っています。



友だちの活躍

◆男鹿潟上南秋中体連栄光賞

柔道男子個人

県総体1位、東北大会2位

3年 ○○ ○○



柔道女子個人 県総体1位

3年 ○○ ○○

相撲男子個人 東北大会1位

2年 ○○ ○○

◆令和7年度健康生活推進顕彰児童生徒

3年 ○○ ○○ ○○ ○○

◆第42回秋田県空手道少年錬成大会

組手1位 個人形3位

3年 ○○ ○○



組手3位

2年 ○○ ○○

組手2位 個人形2位

1年 ○○ ○○

◆第18回三種町空手道協会選抜大会

組手2位

2年 ○○ ○○

◆令和7年度「ふくしの作文」コンクール

最優秀賞 2年 ○○ ○○

優秀賞 3年 ○○ ○○

優秀賞 1年 ○○ ○○

◆石川翁顕彰短歌大会

最優秀賞 2年 ○○ ○○

優秀賞 2年 ○○ ○○ ○○ ○○

○○ ○○

入選 2年 ○○ ○○ ○○ ○○

○○ ○○ ○○ ○○

○○ ○○

秋田地域企業ガイダンス

11月7日（金）、本校1年生を対象に「地域企業ガイダンス」を開催しました。県内から8つの企業・事業所の方々にお越しいただき、事業内容や特色について丁寧に説明していただきました。製造業、サービス業、IT関連など分野は多様で、それぞれが地域に根ざし、独自の強みを活かしていることが印象的でした。

生徒たちは真剣に話を聞き、「地元で働く選択肢を知った」「将来を考えるきっかけになった」といった声も聞かれました。今回のガイダンスは、地域企業の魅力を知り、働くことの意味を考える貴重な機会となりました。秋田で活躍する企業の姿は、生徒たちにとって身近なロールモデルとなり、進路選択の視野を広げる場となったに違いありません。



認知症サポーター養成講座

11月21日（金）、2年生を対象に「認知症サポーター中学生養成講座」が行われました。潟上市地域包括支援センターの職員の方々を講師に迎え、認知症とはどのような病気なのか、認知症の人をどう支援すればよいのか、そして認知症サポーターの役割について学びました。

講座ではロールプレイングを取り入れ、認知症の人への声かけや接し方を体験的に理解しました。中学生が直接介護や具体的な支援を行うことは難しいですが、今回の学びを通じて認知症に関する正しい知識を身につけ、地域で支える意識を高めることができました。

今後も、誰もが安心して暮らせる地域づくりに向けて、理解と協力を広げていってください。



12月の主な行事予定

1日（月）Ⅲ期時間割開始～3/19

3日（水）部活動休養日



4日（木）1、2年生県学習状況調査

6日（土）数学検定②

7日（日）部活動休止日



10日（水）生徒会各委員会

11日（木）学校保健・安全委員会

12日（金）SOS出し方講座

17日（水）職員会議 部活動休養日

21日（日）部活動休止日

22日（月）教師ミニミニ体験～24日

24日（水）部活動休養日

25日（木）冬休み前全校集会 UJOLYMPIC

26日（金）冬季休業～1/13

27日（土）学校閉庁日～1/4



31日（水）大晦日